

俳優や歌舞伎役者らが訴え

国立劇場「早期再開場」要望、政府は33年の開場目指す

日本俳優協会や伝統歌舞伎保存会の代表者らが11月25日、文部科学省で松本洋平大臣と面会し、国立劇場の早期再開場を求める要望書を手渡した。

国立劇場(東京都千代田区隼町)は開場から60年近くが経ち、老朽化が進むとともに、



松本大臣(中央⑤)に要望書を手交する俳優協会専務理事で
伝統歌舞伎保存会専務理事の片岡仁左衛門さん(同⑤)ら



再開場が待たれる国立劇場
(撮影日:2023年10月29日)

俳優協会や伝統歌舞伎保存会は要望書で「世界遺産でもある日本の歌舞伎並びに伝統芸能を健全に継承していくためにも、一日も早期の再開場をお願いしたい」と訴えている。

設備の在り方自体も時代に合わないものとなっていたことから、安全で時代に合った施設・設備を整えるため、2023年10月末に閉場した。

国立劇場の再整備を巡っては、政府の「国立劇場の再整備に係る整備計画」に沿って進められてきた。民間資金を活用するPFI事業を導入し、当初2029年度の再開場を目指してきたが、建設費の高騰等でこれまで2回の入札は不調に終わるなど、再開場のめどが立っていない。

次回入札の確実な成立に向け、政府は今年9月に「国立劇場の再整備に係る整備計画」を改定。2027年度に契約を締結し、2033年度の再開場を目指すとしている。11月18日の参議院文教科学委員会および19日の衆議院文教科学委員会でも、松本大臣は「我が国の文化芸術の『顔』である国立劇場については国が責任を持って早急に再整備を進める」と述べている。